

## 病害虫発生予察 7月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和6年7月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等	平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
長野	本年	25.2	24.2	27.0	59.5	87.0	24.5	43.9	25.7	77.6
	平年	23.1	24.0	25.6	52.9	50.4	34.4	46.8	50.8	71.2
松本	本年	26.3	24.6	27.2	32.0	87.5	9.5	49.9	27.2	87.3
	平年	23.2	24.1	25.2	56.6	46.2	28.5	48.5	54.1	72.3
諏訪	本年	25.0	23.2	26.1	62.0	86.5	27.0	53.6	27.8	94.2
	平年	22.1	23.2	24.3	83.7	68.2	42.2	45.8	53.0	70.7
軽井沢	本年	22.4	20.6	23.1	37.5	75.5	78.5	48.2	30.0	78.5
	平年	19.0	20.1	21.0	72.7	63.7	55.5	38.4	44.2	56.5
飯田	本年	26.2	24.2	27.7	40.5	115.5	6.0	63.2	27.0	97.4
	平年	23.3	24.3	25.5	96.1	94.3	49.7	43.0	52.1	71.1

期間の中頃にかけては、梅雨前線や低気圧、湿った空気の影響により、曇りや雨の日が多くなった。その後は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、気圧の谷や湿った空気の影響により、雨や雷雨となった日もあった。

7月は月を通して暖かい空気が日本付近に流れ込みやすく、下旬を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた。

気象庁は7月18日「関東甲信地方(長野県を含む)は、7月18日頃に梅雨明けしたと見られる。」と発表した(速報値)。これは平年より1日早く(平年は7月19日頃)、前年より4日早い(昨年は7月22日頃)梅雨明けであった。

## 1 水稲

### (1) 生育概況

須坂市(農業試験場作物部)での生育状況は、草丈はやや高く、茎数はほぼ平年並、出穂期は平年と比べ2日早かった(第1表)。

原村(農業試験場原村試験地)での生育状況は、草丈、茎数はほぼ平年並、出穂期は平年と比べ4日早かった(第2表)。

第1表 水稲の生育状況 須坂市(農業試験場作物部)

品種名	区分	移植後30日			移植後40日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>		
あきたこまち	平年	8.0	35	427	9.4	47	612	7/7	7/27
	前年	7.5	37	425	9.3	45	640	7/7	7/28
	本年	8.1	37	433	9.3	52	596	7/7	7/25
コシヒカリ	平年	8.2	38	474	9.5	51	644	7/12	8/5
	前年	7.5	38	305	9.5	45	503	7/13	8/6
	本年	8.2	40	475	9.4	54	649	7/11	8/3

移植期: 2024年5月20日

平年は2017~2023年までの収量最高年と最低年を除く5か年の平均値

第2表 水稲の生育状況 原村(農業試験場原村試験地)

品種名	区分	移植後40日			移植後50日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>		
ゆめしなの	平年	9.0	53	406	10.2	67	474	7/10	8/4
	前年	9.6	54	576	11.0	73	602	7/8	8/1
	本年	8.8	50	373	10.2	68	462	7/7	7/31

移植期: 2024年5月24日

平年は2017~2023年までの収量最高年と最低年を除いた5か年の平均値

### (2) 病害虫の発生状況

#### ①いもち病

AMeDASデータによる葉いもち感染好適条件の判定(BLASTAM)では、7月第1旬~第3半旬までの感染好適条件の出現数が平年と比べ多かった(第3表)。また、巡回調査により、一部のほ場で7月中旬以降に葉いもち発病株率の急増を確認した。

そこで、全県で葉いもちが多発する恐れがあることから、令和6年7月19日付けで「令和6年度病害虫発生予察注意報第2号(イネいもち病)」を発表し、注意喚起した。

第3表 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の7月の出現回数

地域		東信	南信	中信	北信	全県
アメダス地点数		5	8	9	5	27
7月1日 ～	平 年	8.5	11.4	13.8	10.6	44.3
	本 年	9	15	14	14	52
7月15日	平年比(%)	105.9	131.6	101.4	132.1	117.4
7月16日 ～	平 年	7.5	10.9	14.6	8.0	41.0
	本 年	7	7	23	7	44
7月31日	平年比(%)	93.3	64.2	157.5	87.5	107.3

※BLASTAMの判定結果は、JPP-NET（一般社団法人日本植物防疫協会）から引用。平年は2014年から2023年までの平均値。

②紋枯病

7月下旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の一部のほ場で平年と比べ発生が多かったが、全般にはやや少なかった。

③白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

7月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④ばか苗病

7月下旬の巡回調査などでは、中信地域、北信地域の一部のほ場で発生が多かった。

⑤ヒメトビウンカ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での成虫捕獲頭数は、東信地域、南信地域の一部のほ場で平年と比べ多かったが、全般にはやや少なかった。

⑥ツマグロヨコバイ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での成虫捕獲頭数は、南信地域の一部のほ場で平年と比べやや多かったが、全般には少なかった。

⑦イネドロオイムシ

7月上旬の巡回調査では、被害程度は中信地域の一部のほ場で平年と比べ多かったが、全般には平年並～やや少なかった。

⑧セジロウンカ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での成虫捕獲頭数は、中信地域の一部のほ場で平年と比べ多かったが、全般には少なかった。成虫捕獲地点率（調査地点のうち捕獲された地点の割合）は、中信地域で平年と比べ高かったが、全般には低かった。

⑨トビイロウンカ

7月下旬の巡回調査及び予察灯の誘殺調査では、発生はみられなかった。

⑩イナゴ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲頭数は、全般には平年に比べ少なかった。

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲地点率は、全般には平年と比べやや低かった。また、捕獲頭数は全般には少なかった。

⑫イチモンジセセリ（イネツトムシ）

千曲市における黄色粘着トラップを用いた誘殺調査では、誘殺開始時期は7月第1半旬であった。第1世代成虫の発生最盛期は、7月第5半旬で平年並であり、また誘殺頭数は、ほぼ平年並であった（第4表）。

第4表 イチモンジセセリ成虫の黄色粘着トラップ誘殺消長（頭） 千曲市

区分	7月						8月
	1	2	3	4	5	6	1
平 年	0.1	1.9	9.5	15.8	18.2	7.9	5.6
本 年	1	3	12	9	17	10	4

黄色粘着版1,200cm<sup>2</sup> (20cm×20cm×3枚) 当たりの誘殺数、平年は2014年から2023年までの平均値。

⑬カメムシ類

予察灯による誘殺調査（全6地点）でのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数は、須坂市と上田市でほぼ平年並であったが、その他の地点では、平年と比べやや少なかった。

7月上旬の本田すくい取り調査（ネット20回振）での斑点米カメムシ類捕獲地点率は、平年と比べ高かった。捕獲頭数は、平年と比べやや多かった。捕獲種は、アカヒゲホソミドリカスミカメが主であった（第5表）。

第5表 7月上旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲内容

地域	調査地点数	捕獲地点率 (%)		平均捕獲頭数 (頭)		種別捕獲頭数合計(頭)					
		平年	本年	平年	本年	計	アカヒゲホソミドリ	ホソハラカメムシ	アカスジカスミカメ	トゲシロホソカメムシ類	アカヒメリカメムシ
		東信	15	32.2	80.0	1.05	2.00	30	28	0	2
南信	18	26.0	38.9	0.51	0.78	14	10	4	0	0	0
中信	20	39.8	60.0	1.18	0.95	19	16	2	0	1	0
北信	17	34.5	52.9	1.18	1.53	26	26	0	0	0	0
県全体	70	33.3	57.1	0.99	1.27	89	80	6	2	1	0

(注1) 調査方法：本田において、すくい取り（ネット20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫及び幼虫）を調査

(注2) 捕獲地点率(%)：調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合。

(注3) 平均捕獲頭数：捕獲頭数計（成虫数＋幼虫数）÷調査地点数

(注4) 平年：2014年～2023年の平均値

(注5) アカヒゲホソミドリ：アカヒゲホソミドリカスミカメ

トゲシロホソカメムシ類：トゲシロホソカメムシ、オトゲシロホソカメムシ、シロホソカメムシ

7月下旬の本田すくい取り調査での捕獲地点率は、平年と比べ高かった。平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べ多かったが、その他の地域では平年並であった。捕獲種は、南信地域、中信地域の一部ほ場でホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメが多く捕獲された（第6表）。

第6表 7月下旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲内容

地域	調査地点数	捕獲地点率 (%)		平均捕獲頭数 (頭)		種別捕獲頭数合計(頭)					
		平年	本年	平年	本年	計	アカヒゲ	ホソハリカ	アカシジ	トゲシラホシ	アカヒメハリ
							ホソミドリ	カスミカメ	カメムシ類	カメムシ	
東信	15	9.9	13.3	0.19	0.13	2	0	1	1	0	0
南信	18	24.4	55.6	0.55	1.94	35	3	29	3	0	0
中信	20	26.3	35.0	0.64	0.65	13	7	5	1	0	0
北信	17	8.8	11.8	0.09	0.12	2	1	0	0	1	0
県全体	70	18.1	30.0	0.39	0.74	52	11	35	5	1	0

注意事項は第5表に同じ

## 2 りんご

### (1) 生育概況

8月15日までの須坂市(果樹試験場)の果実肥大は、平年並である(第1表)。

第1表 りんごの果実肥大状況 須坂市(果樹試験場)

調査日	つがる								ふじ							
	横径(mm,%)				縦径(mm,%)				横径(mm,%)				縦径(mm,%)			
	平年	前年	本年	平年比												
7/1	57.9	61.9	56.1	97	50.9	56.6	52.8	104	51.4	53.9	52.5	102	44.4	49.4	46.2	104
7/15	69.9	72.6	68.0	97	60.2	65.8	62.4	104	61.9	63.4	63.1	102	52.3	57.7	54.5	104
8/1	80.1	81.0	75.3	94	69.0	73.5	69.5	101	71.4	70.1	71.3	100	60.0	63.2	60.0	100
8/15	85.4	84.4	80.8	95	73.6	76.4	73.3	100	76.9	74.8	76.8	100	64.5	67.3	66.1	103

平年は2009年～2023年までの平均値

### (2) 病害虫の発生状況

#### ①褐斑病

巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並～やや少なかった。

#### ②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

#### ③斑点落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

#### ④腐らん病

巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域の一部のほ場で引き続き発生がみられた。また、罹病枝の切除や病斑の削り取り等が適切に行われず、長い期間放置されているほ場がみられた。

#### ⑤黒点病

巡回調査では、発生はみられなかった。

#### ⑥キンモンホソガ

巡回調査では、県下全域で寄生葉(マイン)がみられ、被害葉率は平年並であった。

須坂市(果樹試験場)のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、7月第2半旬～第3半旬は平年と比べ多かった(第2表)。

第2表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長(頭)

須坂市(果樹試験場)

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	103.0	160.4	277.8	303.4	271.7	191.4
前年	62	159	273	474	590	604
本年	143	849	724	279	156	30

平年は2014年から2023年までの平均値

#### ⑦シンクイムシ類

巡回調査では、果実への被害はみられなかった。

須坂市(果樹試験場)のモモシンクイガのフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、平年並～やや多かった(第3表)。

須坂市(果樹試験場)のスモモヒメシンクイのフェロモントラップ調査による第2世代成虫の誘殺頭数は、平年並であった(第4表)。

第3表 モモシクイガのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)  
須坂市 (果樹試験場)

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	8.5	2.3	0.7	1.3	3.4	4.9
前年	2	0	0	2	7	4
本年	7	8	0	4	9	13

平年は2014年から2023年までの平均値

第4表 スモモヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)  
須坂市 (果樹試験場)

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	4.5	1.9	1.3	4.0	8.7	16.0
前年	9	4	1	31	40	96
本年	1	1	0	4	2	15

平年は2014年から2023年までの平均値

⑧ハダニ類

巡回調査では、リンゴハダニ、ナミハダニの寄生が、県下全域でみられ、一部のほ場では7月中旬から寄生密度が増加した。発生量は平年並～やや多かった。

⑨リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。  
須坂市 (果樹試験場) のフェロモントラップによる調査では誘殺はなかった。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)  
須坂市 (果樹試験場)

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	0	0.2	0.1	0.1	0	0
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

3 なし

(1) 生育概況  
8月15日までの果実肥大は、平年並であった (第1表)。

第1表 なしの果実肥大状況 (mm) 高森町 (南信農業試験場)

品種	区分	7月1日		7月15日		8月1日		8月15日	
		横径	縦径	横径	横径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	39.4	36.4	49.1	63.9	63.9	56.5	75.8	66.5
	前年	46.1	43.2	58.5	71.8	71.8	64.7	80.7	74.7
	本年 (平年比)	42.4 (108)	39.8 (109)	53.6 (109)	67.5 (106)	67.5 (106)	59.1 (105)	77.8 (103)	67.1 (101)
幸水	平年	42.8	35.5	54.3	72.7	72.7	58.9	87.0	70.2
	前年	46.8	39.5	61.7	76.6	76.6	63.2	87.8	72.8
	本年 (平年比)	43.0 (100)	36.2 (102)	55.8 (103)	73.2 (101)	73.2 (101)	58.7 (100)	86.8 (100)	68.9 (98)
豊水	平年	42.7	38.6	52.6	69.4	69.4	60.7	83.2	72.3
	前年	47.8	43.3	61.6	76.6	76.6	68.5	89.1	79.4
	本年 (平年比)	41.0 (96)	38.8 (100)	52.2 (99)	65.0 (94)	65.0 (94)	60.2 (99)	80.5 (97)	70.1 (97)

平年は2001年から2020年までの平均値 (幸水は長果枝と短果枝の平均)

(2) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病率は平年並であったが、果そう葉の発病率は6月までは平年と比べやや低かった (第2、3表)。

第2表 果実の発病 (%) 高森町 (南信農業試験場)

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	40.3	49.4	52.7	67.7	75.1	74.8	87.9
前年	59.8	65.4	78.2	88.0	96.6	—	—
本年	1.2	1.2	21.7	22.1	59.7	81.3	93.0

平年は2014年から2023年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

第3表 果そう葉の発病 (%)

高森町 (南信農業試験場)

区分	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	1.4	5.7	20.7	35.3	51.6	59.6
前年	0	5.3	10.1	33.0	61.6	71.5
本年	0	0	4.0	6.9	5.9	17.8

平年は2014年から2023年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、平年並であった (第4表)。

高森町 (南信農業試験場) の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病は6月下旬からみられ、7月中下旬の発病率は平年と比べやや多かった。また、新梢葉の発病は平年並であった (第5、6表)。

第4表 アルタナリア属菌の捕捉孢子数 (個)

高森町 (南信農業試験場)

区分	6月			7月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平年	40.3	69.0	50.9	41.1	23.0	26.2
前年	23	19	50	22	9	16
本年	59	25	73	22	11	16

平年は2014年から2023年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更  
表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数 (個)

第5表 果実の発病 (「二十世紀」殺菌剤無散布樹) (%)

高森町 (南信農業試験場)

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	3.7	8.5	19.0	37.3	68.6	79.5	81.5
前年	18.8	41.6	69.6	91.4	99.9	—	—
本年	9.5	11.1	45	65.4	95.8	96.3	—※

平年は2014年から2023年までの平均値

※黒斑病による落果が増加したため調査終了

第6表 新梢葉の発病 (「二十世紀」殺菌剤無散布樹) (%)

高森町 (南信農業試験場)

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	6.2	10.6	21.6	29.6	40.8	51.7	55.8
前年	11.2	20.3	30.2	42.8	54.4	74.3	74.5
本年	11.4	10.5	17.5	21.1	22.8	35.3	47.3

平年は2014年から2023年の平均値

④カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並であり、チャバネアオカメムシは平年と比べ多かった (第7表)。

第7表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

高森町 (南信農業試験場)

区分	月	7月						8月
	半旬	1	2	3	4	5	6	1
クサギカメムシ	平年	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
	前年	0	0	0	1	0	0	0
	本年	0	1	1	3	0	1	0
チャバネアオカメムシ	平年	6.9	8	10.5	10.2	12.6	4.2	16.2
	前年	0	2	0	0	0	0	0
	本年	36	90	20	69	45	60	59

平年は2014年から2023年までの平均値

⑤ナシヒメシクイ

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町 (南信農業試験場) でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった (第8表)。

第8表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）  
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	0.6	0.6	1.7	2.3	3.5	2.7
前年	1.5	0.5	5	6.5	18.5	11.5
本年	0.5	1	15.5	12.5	1	11.5

平年は2014年から2023年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、南信地域、中信地域の一部のほ場で、ナミハダニの寄生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。であった。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第9表）。

第9表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）  
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	0	0	0.1	0.4	0.5	0.3
前年	0	0	0	0.5	0.5	0
本年	0	0	0	0	1	0

平年は2014年から2023年までの平均値

4 **もも**

(1) 生育概況

8月10日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、「川中島白桃」は大きい傾向である（第1表）。

第1表 ももの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

品種名	月日	横径 (mm)			縦径 (mm)			側径 (mm)			平年比		
		平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	横径	縦径	側径
あかつき	7/13	61.1	70.3	68.4	60.1	66.6	69.6	61.7	75.2	71.7	112	116	116
	7/20	67.7	78.1	75.7	65.7	73.1	75.3	69.8	84.1	80.9	112	115	116
川中島白桃	7/27	63.5	74.5	76.9	61.4	69.7	75.0	63.1	77.2	79.9	121	122	127
	8/ 3	69.3	80.2	82.7	66.1	74.9	79.1	70.2	83.8	87.1	119	120	124
	8/10	74.7	84.4	88.5	70.6	77.9	84.4	76.6	88.9	94.2	118	120	123

平年は、あかつきは2011年から2023年までの平均値、川中島白桃は2004年から2023年までの平均値あかつきは7月20日に収穫を迎えたため、7月20日で調査終了した

(2) 病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域の一部のほ場で発病葉や発病果がみられ、発生量は平年並～やや少なかった。

②灰星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

④シンクイムシ類

巡回調査では、東信地域の一部のほ場で被害果がみられた。

須坂市（病害虫防除所）のモモシンクイガのフェロモントラップによる調査では、誘殺はなかった（第2表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）  
須坂市（病害虫防除所）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	—	—	—	—	—	—
前年	—	—	—	—	—	—
本年	0	0	0	0	0	0

調査ほ場を2024年から変更したため、平年値及び前年値は無い

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、新梢や果実への被害はみられなかった。

⑥モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。  
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第3表）。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）  
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	60.9	72.7	96.1	49.9	17.7	105.6
前年	238	94	95	83	23	136
本年	4	2	1	6	4	12

平年は2014年から2023年までの平均値

⑦ハダニ類

巡回調査では、寄生葉はみられなかった。

5 **ぶどう**

(1) 生育概況

8月12日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、巨峰及びナガノパープルはほぼ平年並、シャインマスカットはやや大きい傾向である（第1表）。

第1表 ぶどうの果実肥大状況  
須坂市（果樹試験場）

品種名	調査日	横 径(mm、%)				縦 径(mm、%)			
		平年 (平均値)	前年	本年	平年比 (平均比)	平年 (平均値)	前年	本年	平年比 (平均比)
巨峰	7/29	24.3	23.6	25.0	103	26.0	26.4	26.6	102
	8/ 5	25.6	24.7	26.0	102	27.2	27.6	27.7	102
	8/12	26.3	25.3	26.4	101	28.1	28.5	28.5	101
ナガノパープル	7/29	(28.0)	29.7	28.8	(103)	(31.7)	34.5	31.7	(100)
	8/ 5	(29.1)	30.6	29.3	(101)	(33.0)	35.4	32.5	(99)
	8/12	(29.6)	31.1	29.4	(99)	(33.9)	36.0	32.9	(97)
シャインマスカット	7/29	(21.7)	23.6	23.6	(109)	(27.3)	30.3	30.4	(111)
	8/ 5	(23.4)	25.0	24.7	(105)	(28.8)	31.3	31.1	(108)
	8/12	(24.5)	26.1	25.4	(103)	(30.1)	32.5	31.9	(106)

平年は、巨峰は2006年から2023年までの平均値

ナガノパープル及びシャインマスカットは2016年から2023年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①さび病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のほ場で発病葉がみられ、発生量は平年並であった。

③黒とう病

巡回調査では、南信地域、北信地域の一部のほ場で発病新梢及び発病葉がみられ、発生量は平年並～やや少なかった。

④クビアカスカシバ

小布施町（病害虫防除所）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第2表）。

第2表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）  
小布施町（病害虫防除所）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	11.7	9.9	8.5	7.5	3.8	3.8
前年	4	7	10	0	2	3
本年	5	13	11	6	4	4

平年は2014年から2023年までの平均値

⑦チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 **かき**

(1) 生育概況

8月15日までの果実肥大は、平年と比べやや大きい傾向であった（第1表）。

第1表 かきの果実肥大状況(mm)

高森町(南信農業試験場)

品種	区分	7月1日		7月15日		8月1日		8月15日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
市田柿	平年	22.2	20.2	29.9	27.2	38.9	35.8	45.4	42.5
	前年	23.1	21.5	31.5	30.1	41.3	40.3	47.5	46.6
	本年	24.6	23.3	32.3	30.8	39.9	39.3	45.9	44.8
	(平年比)	(111)	(115)	(108)	(113)	(103)	(110)	(101)	(105)

平年は2001年から2020年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、発生がみられなかった。

②円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)での孢子飛散状況は、平年と比べ少なかった(第2表)。

第2表 カキ円星落葉病の子のう孢子の捕捉数

高森町(南信農業試験場)

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
平年	57.7	59.2	66.6	27.1	29.4	32.7
前年	39.4	62.7	133.3	19.1	3.6	60.4
本年	19.2	1.0	40.7	17.0	7.0	8.4

表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数(×1000個)

平年は2014年から2023年までの平均値

④カキクタアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップによる誘殺頭数は平年と比べやや多かった(第3表)。

第3表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

樹種:かき

高森町(南信農業試験場)

区分	7月						8月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	0.7	1.8	7.4	28.5	53.2	43.5	25.8	12.3
前年	0	0	6	8	29	14	27	3
本年	1	2	14	100	17	87	57	5

平年は2014年から2023年までの平均値

7 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

巡回調査では、南信地域の露地栽培(ジュース用)及び施設栽培、中信地域の露地栽培(ジュース用)で灰色かび病、北信地域の施設栽培で葉かび病、輪紋病の発生がみられた。

虫害では、東信地域の露地栽培でアザミウマ類の寄生及び果実の白ぶくれ被害、アブラムシ類の寄生、オオタバコガによる果実被害がみられ、南信地域の露地栽培(ジュース用)でアブラムシ類の寄生及びオオタバコガによる果実被害、施設栽培でオンシツコナジラミの寄生がみられた。また、中信地域の露地栽培(ジュース用)でアザミウマ類の寄生及び果実の白ぶくれ被害、オンシツコナジラミの寄生、オオタバコガによる果実被害がみられた。北信地域の施設栽培では、オンシツコナジラミの寄生がみられ、ハダニ類の寄生がわずかにみられた。

②きゅうりの病害虫

巡回調査では、北信地域の施設栽培でうどんこ病、露地栽培でべと病の発生がみられた。

虫害では、南信地域の施設栽培でアザミウマ類の寄生がみられ、北信地域の施設栽培でアザミウマ類、露地栽培でアザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられた。

③すいかの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害では、南信地域、中信地域ともにアブラムシ類の寄生がみられた。

#### ④キャベツの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場で株腐病、菌核病、黒腐病、南信地域でべと病、黒斑細菌病、軟腐病、北信地域で株腐病、黒腐病の発生がみられた。

虫害では、東信地域の一部のほ場及び南信地域でコナガ、中信地域でアザミウマ類の寄生がみられた。また、全地域でウワバ類の寄生がみられ、チョウ目害虫による被害がみられた。

#### ⑤ブロッコリーの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場でべと病の発生がみられた。

虫害では、東信地域の一部のほ場でコナガ、ウワバ類の寄生がみられ、チョウ目害虫の被害がみられた。

#### ⑥はくさいの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場でピシウム腐敗病、べと病、中信地域の一部のほ場でべと病の発生がみられた。

虫害では、東信地域の一部のほ場でチョウ目害虫の被害がみられた。

#### ⑦レタスの病害虫

巡回調査では、東信地域及び北信地域で斑点細菌病、すそ枯病、中信地域で軟腐病、斑点細菌病の発生がみられた。また、東信地域の一部のほ場でべと病の発生がみられた。

虫害の発生はみられなかった

#### ⑧アスパラガスの病害虫

巡回調査では、東信地域（露地栽培）、中信地域の一部のほ場（雨よけ栽培）、で茎枯病の発生がみられた。また、北信地域の一部のほ場（雨よけ栽培、露地栽培）で茎枯病、斑点病の発生がみられた。

虫害では、全域でアザミウマ類の寄生がみられた。また、東信地域でチョウ目害虫の被害、南信地域の一部のほ場でアブラムシ類、ハダニ類の寄生、中信地域でアブラムシ類の寄生、北信地域の一部のほ場でチョウ目害虫の被害がみられた。

#### ⑨ねぎの病害虫

巡回調査では、全調査ほ場（南信地域、中信地域）で黒斑病、さび病、べと病の発生がみられた。

虫害では、全調査ほ場でアザミウマ類、ネギハモグリバエの被害がみられた。また、南信地域の一部のほ場で、ネギコガの寄生がみられた。

#### ⑩きくの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害では、東信地域でハモグリバエ類、南信地域でアブラムシ類の寄生がみられた。

#### ⑪コナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、東信地域のキャベツ、ブロッコリーの一部のほ場、南信地域のキャベツで寄生がみられた。

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第5半旬は平年と比べ多かったが、その他の期間は平年並～少なかった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、第4半旬まで平年並～多かったが、第5半旬以降は平年と比べ少なかった。上田市菅平（地区予察ほ）では、全般的に平年並であった。原村（防除決定ほ）では、第4半旬まで平年並～少なかったが、第5半旬以降急増し、平年と比べかなり多かった。朝日村（地区予察ほ）では、第4、第5半旬は平年と比べやや多かったが、その他の期間はほぼ平年並であった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、平年並～少なかった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半旬	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	18.8	14.2	16.4	18.9	16.9	18.8
		本年	2	4	4	21	29	12
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	21.1	33.0	34.5	22.9	23.4	17.5
		本年	42	41	38	33	15	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	4.8	4.2	5.6	5.1	6.2	6.4
		本年	8	9	3	2	12	7
諏訪郡原村 (防除適期決定ほ)	ブロッコリー	平年	38.4	42.2	39.9	48.9	36.0	45.7
		本年	27	36	18	41	156	204
東筑摩郡朝日村 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	13.2	9.8	8.5	17.2	34.2	13.5
		本年	12	8	7	23	55	11
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	16.2	14.8	13.6	15.2	13.5	16.5
		本年	1	1	2	13	8	6

平年は2014年から2023年までの平均値、朝日村は2019年から2023年までの平均値

### ⑫オオタバコガ

巡回調査では、東信地域、南信地域、中信地域の露地栽培で、幼虫による果実への食入被害がみられた

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、全般的に平年並～多く、特に第3半句以降は平年値の約2倍と多かった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、平年と比べ多く、第1半句～第4半句は、平年値の2.6～4.2倍とかなり多かった。須坂市小河原（農業試験場）では平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半句	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	4.3	8.8	10.2	19.9	20.8	26.0
		本年	8	10	26	44	47	46
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	10.1	15.6	13.5	11.5	10.8	15.3
		本年	34	40	47	48	20	25
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	2.3	8.1	13.1	16.0	9.9	8.7
		本年	0	0	0	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

### ⑬ヨトウガ類

巡回調査では、キャベツ、ブロッコリー、はくさいの一部のほ場で、チョウ目害虫の被害がみられたが、ヨトウガ類と確定できるものはなかった。

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第3半句まではほぼ平年並であったが、第4半句以降平年と比べやや多かった。須坂市小河原（農業試験場）では、平年と比べ少なかった（第3表）。

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第2半句を除き平年よりも多く誘殺され、特に第5、第6半句は平年と比べ多かった。須坂市小河原（農業試験場）では、第1、第2半句は平年と比べ少なかったが、第3半句以降増加し、第5、第6半句はそれぞれ平年値の17倍、13倍と非常に多かった。上田市菅平（地区予察ほ）では、全般的に平年と比べ少なかった（第4表）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、7月第1半句は平年並であったが、第2半句以降増加し、第5、第6半句は平年と比べ多かった。長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半句	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	2.4	2.6	10.8	12.4	17.9	23.2
		本年	2	1	7	18	28	28
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	0.6	1.9	2.4	2.6	1.5	0.6
		本年	0	0	0	1	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半句	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	15.5	23.6	16.4	17.5	20.5	27.1
		本年	25	14	21	25	44	67
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	10.4	15.8	10.6	10.8	10.7	19.4
		本年	7	6	16	19	184	245
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	6.3	5.9	5.1	4.6	6.3	5.8
		本年	2	4	1	1	1	2

平年は2014年から2023年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半句	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	3.2	3.2	3.6	3.2	3.4	5.3
		本年	2	8	3	8	24	22
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	0.5	0.2	0.0	0.2	0.5	0.3
		本年	0	0	1	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値、長野市は2018年から2023年までの平均値

⑭ウワバ類（アブラナ科野菜）

巡回調査では、全地域のキャベツ、東信地域のブロッコリーの一部のほ場で、被害がみられた。

⑮ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域、中信地域のねぎ、東信地域のきくで被害がみられた。

⑯アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜野菜花き試験場）では、第3半旬は平年並であったが、その他の期間は平年と比べ少なかった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、第2半旬まで平年と比べやや多かったが、第3半旬以降減少し、平年と比べ少なかった。上田市菅平（地区予察ほ）では、概ね平年並であった。諏訪郡富士見町（防除決定ほ）では、第1、第4、第6半旬は平年並であったが、その他の期間は平年と比べて多かった。塩尻市洗馬（地区予察ほ）では、第1、第2、第6半旬は平年と比べ少なかったが、第3～第5半旬は平年と比べ多かった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、第2～第4半旬は平年と比べやや少なかったがその他の期間は平年並であった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半旬	7月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	17.6	13.5	16.6	13.1	15.0	10.0
		本年	2	3	14	2	7	5
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	43.6	21.0	28.4	18.3	9.9	15.9
		本年	59	34	15	8	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	3.0	2.9	3.1	2.6	2.1	2.6
		本年	9	3	2	1	1	0
富士見町富士見 (地区発生予察ほ)	きく	平年	64.6	46.9	58.6	48.6	37.2	31.1
		本年	35	120	108	53	78	28
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	66.4	73.4	48.6	26.8	19.1	16.1
		本年	18	13	83	63	43	6
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	14.7	8.9	6.3	4.6	3.6	4.0
		本年	14	1	0	1	3	3

平年は塩尻市・小諸市・富士見町は2017年から2023年までの平均値、上田市・長野市は2018年から2023年までの平均値

⑰アザミウマ類（ネギ、ヒラズマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市菅平（地区予察ほ）では全般的に平年と比べ多かった。諏訪郡富士見町（防除決定ほ）では、誘殺頭数の増減が激しかったが、全般的には平年並の誘殺頭数であった。塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）では、第3、第6半旬の誘殺頭数が平年と比べかなり多かった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、全般的に平年と比べかなり多かった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長 (頭)

設置場所	品目	区分 半旬	7月					
			1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	13.3	26.5	21.8	15.0	13.2	16.5
		本年	48	60	23	26	23	23
諏訪郡富士見町 (防除適期決定ほ)	きく	平年	40.7	20.9	39.0	40.9	41.3	45.4
		本年	11	62	50	32	61	35
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	40.6	37.3	87.0	131.3	161.7	73.7
		本年	27	12	223	118	109	259
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	50.7	18.0	27.3	37.2	42.8	41.0
		本年	146	168	126	80	83	55

平年は上田市・長野市は2018年から2023年までの平均値、富士見町・塩尻市は2017年から2023年までの平均値

⑱ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、東信地域のいちご（施設栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）、北信地域のトマト（施設栽培）で寄生がみられた。